

令和7年度「ちばっ子の学び変革」推進事業 研究状況報告書

浦安市立見明川小学校





学校教育目標

「心が豊かでたくましく、
自ら学ぶ子を育てよう」

めざす児童像

- ・心が豊かな子
- ・たくましい子
- ・自ら学ぶ子

- ◆児童数 516名
- ◆学級数 全20学級
(各学年3クラス・特支2クラス)
- ◆創立 昭和53年
浦安市内4番目の学校
(来年度で50周年)
- ◆地域
浦安市の弁天・今川・舞浜
(都市部 閑静な住宅街)



1. 研究主題
2. 主題設定の理由
 - ・児童の実態
 - ・目指す児童像
3. 今年度の実践(手立て)
 - ・個別最適な学びと協働的な学び
4. 授業の様子
 - ・各学年の実践
 - ・習熟度別学習(加配教員の活用)
5. 研究の成果と課題
次年度の研究の方向性



浦安市立見明川小学校
マスコットキャラクター
「アスミート」



1. 研究主題

研究主題

「わかる・できる」算数科学習
—「個別最適な学び」と「協働的な学び」の
一体的な充実を目指して—

研究仮説

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させれば、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることができるだろう。



2. 主題設定の理由

児童の実態 (全国学力・学習状況調査より)

学力面

すべての項目で、全国・県平均を上回る。
(基礎的な計算力などは定着している児童が多い。)

情意面

【個人の課題】

「見通しをもつ」「自分で取り組む」
「粘り強さ」「自分の言葉で書く」

【集団の課題】

「ICT機器の活用」
「友達と考えを共有する」

しかし...

今年度の
重点

(実践モデルプログラムより)
自分で取り組む

目指す児童像

- 低学年: 進んで学習に取り組み、自分の考えをもつことができる子
- 中学年: 解決の見通しをもち、進んで学習に取り組むことができる子
- 高学年: 解決の見通しをもって取り組み、友達と互いに学び合うことができる子
- 特別支援学級: 疑問をもち、進んで学習に取り組むことができる子

わかった!
できた!

主体的・対話的で深い学びの
実現

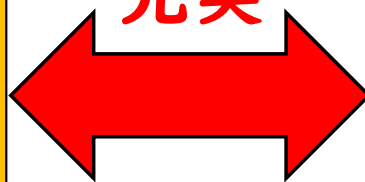


3. 今年度の実践（手立て）

個別最適な学び

- 習熟度別学習
（加配教員の活用）
- ヒントカードの活用
- 学習形態の工夫
（個人・複数・教師）

一体的な
充実



協働的な学び

- 「〇〇合い」の充実
- ペア・グループ学習
- タブレット・ホワイトボードの活用
- ヒントカードの活用
（話し合う視点の明確化）

ICT機器の日常的な活用

AIドリルの活用、タブレットでの意見共有、電子黒板の活用

検証方法：児童アンケート（変容）、単元ごとのテストの結果、観察（様子・ノート等）



全学年で、発問の工夫を行った。

どっちが
重いかな？

どっちが
広いかな？

5年生「面積」

3年生「重さ」



タブレットを使い、
既習事項の確認を
行った。

1年生 「ひきざん(2)」



ホワイトボードを
使い、計算の仕方
を確認し合った。



ヒントカードを使い、丸で囲って、どう考えたかを表した。

2年生 「かけ算(1)」



どのように分けたかの考え方を、友達と共有した。



どのくらいの重さか、どの秤を使えばよいかを、考えた。

3年生 「重さ」



予想した秤を使い、友だちと協力して重さを図った。

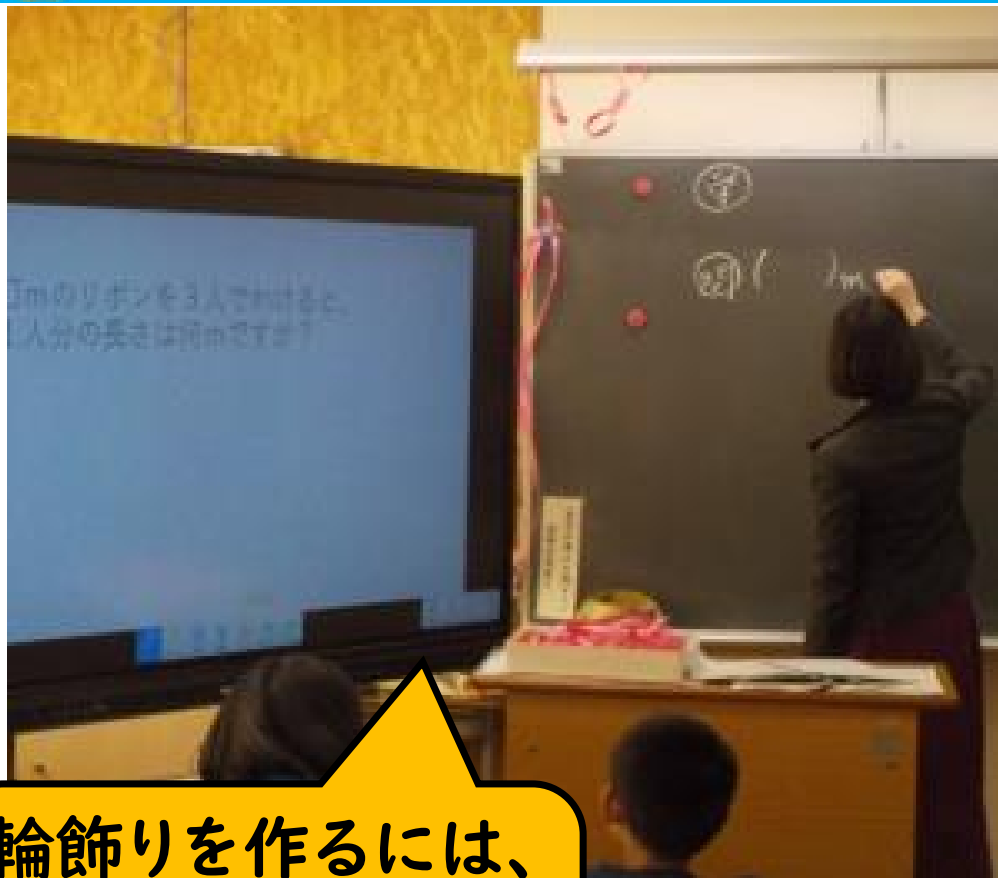


ぴったり出すには、
いくら出せばよいか
を考えた。

たんぽぽ「買い物しよう」

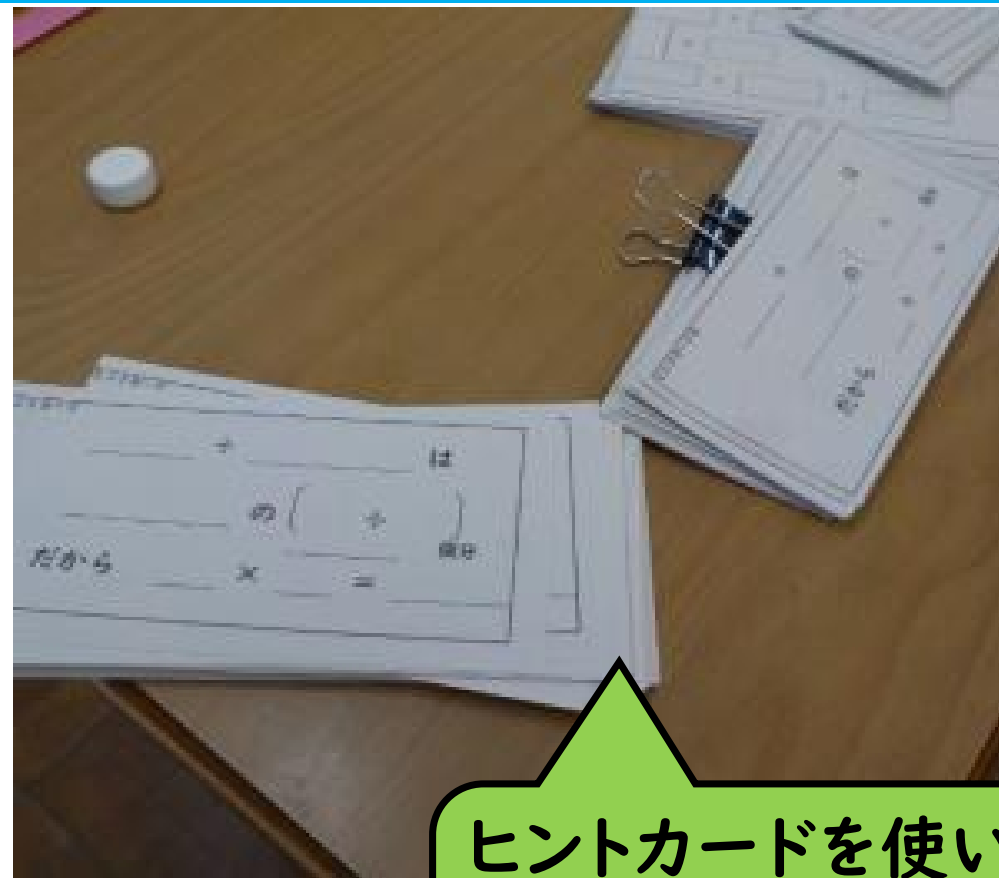


客、店員、チェック
の係に分かれて、
答えの確認をした。



輪飾りを作るには、
どの長さで作るのが
よいかを考えた。

4年生 「小数のかけ算とわり算」



ヒントカードを使い、
説明の仕方を確認し、
発表した。



ヒントカードを使い、
面積の求め方を図
や言葉で説明した。

5年生 「面積」
習熟度学習 (2クラス展開)



求め方を、ホワイト
ボードにまとめ、考
えを共有した。



【ぐんぐんクラス】
様々な問題に取り
組んだ。

6年生「円の面積」
習熟度学習(4クラス展開)



【すらすらクラス】
ヒントをもとに、解
き方を確認した。



【しっかりクラス】
図形を重ね合わせ、
見通しをもった。



【じっくりクラス】
解き方をまとめ、
考えを共有した。

6年生 「円の面積」
習熟度学習(4クラス展開)



研究の成果

①情意面の向上（数値改善）

・「あきらめずに考える」「算数は大切」という肯定的回答が増加した。

②「問い」が生む主体的な学び

・導入の「発問」の工夫により、学習意欲が高まった。

・自分から取り組む児童が増えた。

③指導体制の確立

・加配教員との連携により、きめ細かな支援ができた。

課題

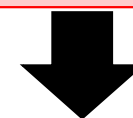
●情意面のさらなる向上

・平均と比べると、数値がまだ低い

●アウトプットの質の向上

・「自分の言葉」でまとめる力

・ICT活用の技能差の解消



次年度の方向性

○「問い」から生まれる学びの深化

○実践モデルプログラムのさらなる定着（「自分で取り組む」の質の向上）